

二部 軟式野球部

2年連続5度目 関東II部代表に

全日本大学選手権へ出場

二部の軟式野球部が関東II部大学軟式野球連盟の代表として、2年連続5度目となる全日本大学軟式野球選手権(8月6～10日、熊本県)への出場を果たした。写真。熊本県立大(九州地区代表)との1回戦は3回に集中打で6点を挙げるなど、12-2(5回コールド)で圧勝。しかし、2回戦で惜しくも北海学園大(北海道地区代表)に敗れた。



「今年は実践練習を増やし、チーム内での競争意識を高めました」と小松涼平主将(経済3)。その結果、レギュラー入りを目指し、自主練習に励む選手が増え、チーム力が向上。「昨年までの粘り強い守備に加え、つなぐ野球で、どこからでも点を取れる打線が組めるようになったのが今年の特徴です」と話す。

9月6日から開幕した秋季関東リーグ戦でも好調を維持。上位2チームが出場できる東日本大学軟式野球選手権に向け目下、特訓中だ。

専修大学経営学部「地域と大学を結ぶセミナー」～夢をカタチにする挑戦～

もっと、LOVEマック！

みんながもっとマクドナルドのお店に行きたくするような新商品・お店作りのアイデアを高校生の皆さん、考えてみませんか！

日時	11月23日(木) 10時～16時
場所	専修大学生田キャンパス9号館
対象者	高校生
参加費	無料。お昼にはマックの製品を召し上がっていただく予定です
申込締切	11月6日(月)
申込先	E-mail: mkyomu@acc.senshu-u.ac.jp (高等学校名・参加者名・参加人数・性別・連絡先を明記) 専修大学教務課経営学部「地域と大学を結ぶセミナー」係



主催：専修大学経営学部・同経営研究所

協力：日本マクドナルド株式会社

プロ修斗環太平洋ミドル級

格闘家 中村K太郎さん（法4） 初代チャンピオンに

学業と両立させながら総合格闘技の世界で活躍する中村K太郎さん（本名・圭太＝法4）が7月21日、米国ハワイ州で行われたプロ修斗の初代環太平洋ミドル級チャンピオン決定戦に出場。同級2位のロナルド・ジェーンから1R3分55秒、得意のチョークスリーパーでギブアップを奪い、見事初代チャンピオンの座についた。

中村さんは格闘技団体『和術慧修會』東京本部に所属し、05年度修斗ミドル級新人王となるなど（本紙421号既報）、順調に戦績を残してきた。「達成感を感じますが、このベルトは通過点だと考えています」と話す。

9月9日に行われた総合格闘技イベント『D.O.G』でも勝利し、プロ通算13勝2分。15戦無敗は日本人格闘家の新記録となる。9月5日発表の修斗世界ランキングではミドル級1位にランクされ、「次の狙いは世界タイトル。また、もっと大きなイベントのリングにも立ちたい」と目標を語った。

※修斗（シュート）…打撃技・投げ技・極め技を駆使して戦う総合格闘技の一種。

06年度中期留学プログラム<英語コース・後期>

2006年度中期留学プログラム(英語コース・後期)の留学許可書交付式とオリエンテーションが7月28日、生田キャンパスで行われ、大林守国際交流センター長から留学する8人に許可書が手渡された。

<06中期留学プログラム(後期)参加者>

●ネブラスカ大学 リンカーン校

秋山 夢(経済2)

星野 智也(〃)

兼子 弘也(法3)

高橋 綾(法2)

田京 良子(文3)

斉藤可奈枝(〃)

藤本 亜美(文2)

●ワイカト大学

坂本麻由美(文2)

(敬称略)



▲大林センター長を中心に留学する8人

《New Ground- 新しい見方<5>》

今こそ「哲学」を学ぼう

奈良 仁之 (文1・ジャーナリズム研究会)

私が専修大学に入学して、早いもので半期が過ぎた。90分授業にも慣れ、大学の施設の場所も覚え、友達もでき、やっと大学生活に馴染んできた。そんな中、大きな不安と可能性を感じていることがある。それは「哲学を学ぶ」ということだ。

いままでの勉強は、物事を知り、覚えることが中心だった。しかし、哲学は違う。物事を知った後に自分で考えることが必要なのだ。それは難しいことだ。まず対象となることを深く理解し、そのうえで疑問を出し、是非を深く吟味しなければならない。それには多大な知識、論理的な力、さまざまな切り口で問題を見る必要がある。私はいままでとは大きく違う勉強に、苦しんでいる最中である。

しかし、その難しさの中にそれ以上の可能性を感じる。哲学には独特のパワーがある。それは自分の人生をかけて熟考し、それによって導き出された思想から発せられる力だ。哲学者なら誰もその力を持っているだろう。そして、哲学書などを通じて思想を学ぶとき、その力は必ず私達に何らかの影響を与える。さまざまな思想を吸収し、自分の考えを深めていくことで私たちもその哲学独特のパワーを身につけることができるのではないだろうか。その力で、きっと人生に自信がつくだろう。

真理とは何か。人生とは何か。本質とは何か。そのようなことを真剣に考えられるのはきっと今しかない。そして、考えて得られたことはこれからの人生を支える大きな力となってくれるだろう。哲学は考える難しさや素晴らしさを私たちに教えてくれる。この文章を読んで少しでも哲学に興味を湧いた人は、ぜひ一度、哲学の本を読んでみてはいかがだろうか。読んだその日から、自分の人生が少し変わるかもしれない。

日高学長講演録

「大学のあり方と社会知性の開発」

日高義博学長がこれまで行った講演を取りまとめた小冊子「大学のあり方と社会知性の開発」=写真=が刊行された。大学のあり方と「社会知性の開発」がどのような接点をもっているのか、本学の建学の精神と「社会知性の開発」はどう結びついているのか、これまで折に触れて語ってきたことをまとめたもので、専修大学が担っている熱き使命とこれからの展望が伝わってくる。この小冊子は育友会支部懇談会で配布したほか、学生には教務課、学生生活課等の窓口で配布している。

ご希望の方に差し上げます

① 今号で興味を持った記事 ② 今後取り上げてほしい記事 ③ 住所・氏名・電話番号・育友の方はご子女の学部学年、卒業生の方は卒業学部年をはがきにご記入の上、ご応募ください(いただいた個人情報は発送のみに使用いたします)。

〒101-8425(専用郵便番号)専修大学広報課NS係

お問い合わせ：電話 03(3265)5819

※10月6日消印有効。



《マンガ》

「夏休みの思い出！？」

(漫画研究同好会・フッキー 作)

